

東日本大震災 いったい誰がガンバルのか !!

ガンバロー日本、ガンバロー東日本、ガンバロー東北、テレビでは「ガンバロー」が氾濫している。

しかし東北の人たちに、被災している人たちに、明日の展望が見えない人たちに、何をがんばれと言うのか？

むしろ悲惨な状況をテレビで見ている者こそ

がんばるべきではないのか？

支援しなければならない者こそがんばるべきではないのか？

一人一人が何をすべきなのか？自問自答しよう。そして一瞬にして家族や友人を失った人たちに、自分は何ができるのかを考えよう。

「ガンバロー」は私たち自身に向けられている。

新横浜駅の営業第二科において社員が管理者に半休を取りたいと言うと、管理者が「新横浜駅では半休はとれない」と言われ、拒否されるという事態があった。

その話を聞いた組合員が管理者に確認したところ。「駅で半休をとると人員をひとり張りつけなければならないので、認めていない」と言われた。

しかし半休の取得は平成21年12月1日より従来の「私傷病による」という制限をはずし年休取得と同じ扱いになっている。会社の就業規則で定めたものを「会社が守らない？」というのはおかしいのではないかととの質問に、管理者は「総務課長に確認する」と答えた。

会社は半休の申請があれば年休と同じように要員を半日分確保すればいいことであって、それを拒否するということは会社自ら「就業規則違反」をやっていることであり、労

働基準法違反でもある。

「新横浜駅では半休は取れません」!?

そこで組合員は4月の年休申請で「半休」を希望したところ、当たり前のことだが何の問題もなく「半休」が入っていた。管理者に再度確認したところ前回とは打って変わって「何も問題はないよ」と素っ気ない対応であった。

年休取得は労働者の権利である。しかしその権利は主張し、実行しなければ具体化されない。

一部の社員は「おかしい」と思っても管理者から言われると黙ってしまう。そして職場のなかで愚痴をこぼして終わってしまう。

会社は「法令遵守」などと言うが、これまでどれほどの不当労働行為をやってきたのか？「黙っていても会社が定める『就業規則』違反までして、私たちの権利を奪う」ということを今回の事態はよくあらわしている。

一寸五部

大震災に伴う福島第一原発事故に対する東京電力への社会批判が続いている。マグニチュードを二回にわたって書き換え、「想定外の自然災害」や「直ちに障害はない」などと言いつつ楽観論に終始し、ひいては作業線容量を二・五倍にまでかさ上げして危険な現場作業を続けている。

ここには原発の安全神話を何十年にもわたって刷り込み外注化で利潤をあげてきた東京電力の企業体質、いや政府あげての原発政策の構造的な姿勢がよく現れている。そしてそのようなものとして、原発報道は理解されなければならぬ。原子炉が水素爆発を起したということ、明らかに原子炉は外気に通じていたということであり、その損傷箇所を修復しないかぎり原子炉内の高放射能の放出は止まらないということだ。放水や冷却水の注入は燃料の核分裂を抑えるために、放射能汚染を拡げてきたという点でもあり、